

# 🕒 スケジュール・カードの種類

カードの種類 提示の仕方		文字タイプ	イラストタイプ (活動部屋のロゴマーク)	写真タイプ	実物タイプ
		平仮名文字だけの提示です。徐々に文字慣れするために写真やイラストカードに付帯して練習する場合もあります。	写真より抽象的なイラストを使います。活動場所のロゴマークやイメージできるイラストなどを使います。	実際に行く場所や活動で使うものを写真化したカードです。	一番具体的に示す方法です。トイレに行く場合は紙パンツ、散歩は靴や帽子、給食にはスプーンを使います。
即時式		「今からここに行くよ」「こんなことをするよ」「ここに帰るよ」と伝えるために、子ども達に活動を知らせる直前に手渡します。カードの大きさも複数あります。目的の場所まで気持ちが持続しやすいように、気づきに配慮して大きいサイズを使用する場合もあります。			
携帯式	2コマ それ以上	即時式と同じように提示しますが、「今からここへ行って、その後、これね…」というように時間軸で上から順番に活動が進行することをカードで提示します。上から順にカードを取っていくように促します。お子さんの理解量によっては3コマ(※コマ：使うカードの数)以上で提示、また後の活動へ期待を持てるために数コマ使いする…など使い方はお子さんに応じて様々です。		これは2コマの携帯スケジュールです。上から順に活動が進行することを学習します。	
設置式	数コマ 半日 一日 確認のみ	数コマから、半日(午前/午後)、一日(登園～降園)までお子さんの理解量に応じて提示する長さを調整します。 <b>トランジションカード</b> (名刺大の個人カラーカード)を受け取ると、スケジュールが設置されている自分のクラスへ戻り、自分で次の活動を確認しカードを抜き取る作業が必要とされます。携帯式とは異なり、設置式では毎回、自分のクラスへ戻る必要があります。動きとして少し面倒な一面もありますが、スケジュールを自分で確認し、自立化していく大事な一歩となります。	上の小箱にトランジションカードを入れてから、活動カードを抜き取ります。	これは4コマの設置スケジュールです。基本的に2つの活動の行き帰りの見通しがつくように提示しています。半日提示では少し多くて混乱するような場合にはこのように提示量を調整します。	
口頭指示 (カードなし)		言葉のみでコミュニケーションが図れる場合はカードを使わず、「○○くん、次△△へ行くよ/クラスに戻りましょう」というように言葉でお知らせします。この場合はカードを使いません。	※視覚支援に頼らずとも、基本的に口頭でやりとりができる場合 ※就園・就学を見据え、一斉指示を聞く練習をする場合	ここに載せているものに限らず、お子さんの能力に応じていろんなスケジュールのバリエーションがあります。どれもお子さんが自分の力で活動を遂行していくための『自立』を目指したアプローチです。スケジュールを使用する中で段階的にレベルアップし、お子さんが見通しを持ちやすく、過ごしやすい支援方法を考えていきます☆。	



## こういうカードアイテムもあるよ♪

カードの種類		内容と使用例
中止		<p>活動を急きよ取りやめにする場合。 赤色の中止カードが重なっている場合は、そのカードはとらずに残したまま、次のカードをとります。生活の中では、予定が急に中止になることもありますよね。どのように伝え、理解し、そういう事態にも慣れていくのか、日々のスケジュールの中で少しずつリハーサルできるといいですね。</p>
追加		<p>活動の前後に追加して、なにか別の活動(もしくは部屋移動)を追加する場合。 左の写真でいうと、「テラス」の次に「トイレ」を差込追加して、テラス→トイレ→きりん(ぶれいりあ)という流れになります。</p>
変更		<p>予定していた活動をチェンジし、代わりに異なる活動が入る場合。 黄色の変更カードが重なっているほうは取らずに残したまま、代わりに提示されている矢印右側のカードをとります。</p>

倉敷学園ではクラス替えをする度に、年度初めに自分の色(カラー)をご提示させていただいています。これはスケジュール管理だけが目的ではなく、お子さん達が自分のロッカーの場所、自分の持ち物などを自分で把握していくために、こども達にも手掛かりが分かりやすいように色決めさせていただいています☆。

